

ときめき人

Tokimeki bito

明るく温かな歌声響く



はさま童謡を歌う会

毎月第1、第3火曜日に迫公民館で練習しています。興味のある人はぜひ見学に来てみてください。音楽経験がない人も歓迎。一緒に音楽を楽しみましょう。

歌う楽しさを共有し、美しい日本の童謡を絶やさず、子どもたちに伝えていきたいという思いを胸に「はさま童謡を歌う会」が発足したのは1992年。32年目を迎えた今年、30人の会員が月2回、童謡を歌って楽しんでいる。指導者の高橋由紀子さんは「みんなの声を重ねて一緒にハーモニーを作りあげることが合唱の魅力。歌うことは喜びや元気に繋がります」と話す。

登米市合唱祭や市役所ロビーコンサート、市内福祉施設への訪問演奏など、発表の場でも順調に活動を続けてきたが、コロナ禍で活動に制限がかかる。準備を進めていた結成30周年記念コンサートは中止となった。「先生から渡されたCDを聞いて自主練習しながら、早く集まってみんなと歌い

たいと願っていました」と会員は口をそろえる。以前と同じように活動できるようになり、11月7日に市役所迫庁舎でロビーコンサートを、12月には市合唱祭に参加する予定。そして、3年後の35周年コンサートの開催に向けても士気を高める。

「高橋先生の熱心で楽しい指導と、伴奏の石井先生のピアノに魅了され、明るい雰囲気の中で仲間と歌えることが本当に楽しくて、大切な時間。これから、たくさんの人に歌声を届けていきたい」と笑顔があふれた。

懐かしい童謡から幼稚園などで歌われている最近の曲まで、レパートリーは幅広い。聴く人、歌う人の心の豊かさを育む音楽の素晴らしさを、世代を超えて伝えていくため、歌声は響く。

編集後記

▼世界の舞台でも活躍した高橋投手と尾形捕手。彼らが小学生の時に球審をする機会があり、試合を見ながら当時の思い出に浸りました。今後の彼らの活躍に胸が躍ります。私はというと、長沼レガッタの混合の部に同僚と出場し、念願の初優勝を達成。優勝旗をもらって年甲斐もなほしゃぐ43歳です。(高橋)

▼レガッタの応援で駐車場からボート場まで歩いただけで筋肉痛になった47歳です。その後、こどもまつりの取材に行ったのですが、祝祭劇場の駐車場が満車でびっくり。本当にたくさんの親子の笑顔を見ることができました。(渡邊)

▼登米秋まつりの山車やおはやしに、340年以上の歴史があると知り、驚いた24歳です。先人の、地域を盛り上げようとする思いを引き継ぎ、一丸となって結束する地域の人たちの姿と力に感動しました。運営に携わった皆さん、楽しいまつりをありがとうございました。(木戸浦)



登米市公式ホームページ
<https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、市政に関する情報などを配信)
<https://mail.cous.jp/tomecity/>



登米市公式 LINE
(市政、イベント情報などを配信)
<https://line.me/R/ti/p/%40972tqqam>